

デジタル通貨勉強会

第2回

2020/6/18

第2回 アジェンダ

1. 本勉強会の進め方 . . . 10分

2. 各国の事例紹介 . . . 60分

説明 (アクセンチュア株式会社様)
質疑

3. デジタル通貨の定義 . . . 20分

説明
討議

4. デジタル通貨の実現モデル . . . 20分

説明
討議

5. 事務局より連絡事項 . . . 5分

第2回 アジェンダ

1. 本勉強会の進め方 . . . 10分

2. 各国の事例紹介 . . . 60分

説明 (アクセンチュア株式会社様)
質疑

3. デジタル通貨の定義 . . . 20分

説明
討議

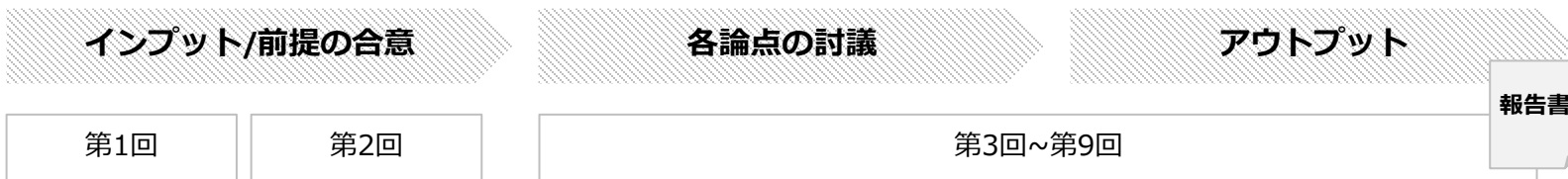
4. デジタル通貨の実現モデル . . . 20分

説明
討議

5. 事務局より連絡事項 . . . 5分

デジタル通貨勉強会の進め方

第1回～第2回のインプットを経て、第3回以降で各論点を検討・整理。最終的に本勉強会として、日本におけるデジタル通貨のあるべきモデルを報告書に取り纏める



経済活性化と市民生活の向上に向けた、 日本におけるデジタル通貨のあるべき実現モデルは？

- ✓ 本勉強開催の意義と目的は何か
- ✓ 決済インフラの観点から、**経済効率化やイノベーション促進を如何に実現し得るか**
- ✓ グローバルではどのような動向か
- ✓ 経済効率化、市民生活の質の向上等を見据え、本勉強における**デジタル通貨のモデル**をどのように定義すべきか
- ✓ デジタル通貨の**流通・交換の範囲**をどう考えるか
 - 発行体内の流通、発行体外への流通、発行体同士の交換等
 - KYCは誰が実施するか
- ✓ 各プレイヤーの**役割をどのように定義**するか、特に発行体は誰が担うべきか
- ✓ **発行・流通・交換の具体的なフロー**はどうあるべきか
- ✓ **システムアーキテクチャ**はどうあるべきか、必要とされる機能は何か
- ✓ 具体的にどのようなユースケースで利用可能か
 - 企業活動や市民生活向上にどのように寄与**するか
- ✓ 如何に持続可能なモデルとするか 等

主要論点

報告書

第2回 アジェンダ

1. 本勉強会の進め方 . . . 10分

2. 各国の事例紹介 . . . 60分

説明 (アクセンチュア株式会社様)
質疑

3. デジタル通貨の定義 . . . 20分

説明
討議

4. デジタル通貨の実現モデル . . . 20分

説明
討議

5. 事務局より連絡事項 . . . 5分

デジタル通貨とは

本勉強会におけるデジタル通貨の定義と、検討範囲を議論したい

デジタル通貨の定義

デジタル通貨は...
①通貨の3機能を持ち ②電磁的に価値を記録したものの

デジタル通貨の種類

デジタル通貨には主に①CBDC、②ステーブルコイン、③民間発行デジタル通貨の3つが存在

	法定通貨	デジタル通貨	裏付資産	発行体	トランザクションの処理主体
支払手段	✓	✓	法定通貨	中央銀行	発行体と同様 (集権型)
価値の保存	✓	✓	暗号資産担保	事業会社 / コンソーシアム	不特定多数も可 (分散型)
価値の尺度	✓	✓	なし (アルゴリズム)	事業会社 / コンソーシアム	
			現物資産担保 (金等)	事業会社 / コンソーシアム	
			法定通貨担保	事業会社 / コンソーシアム	
			前払式 支払手段型	事業会社	発行体と同様 (集権型)
			資金移動業型	事業会社	
			銀行型	銀行	
			暗号資産	※プロジェクト次第	不特定多数も可

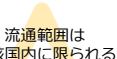




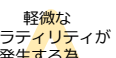
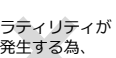




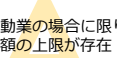





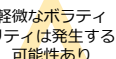
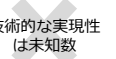

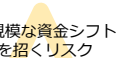










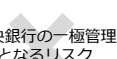



+ 電磁的に価値を記録

↑ デジタル通貨 ↓

通貨の機能を満たさない為 対象外

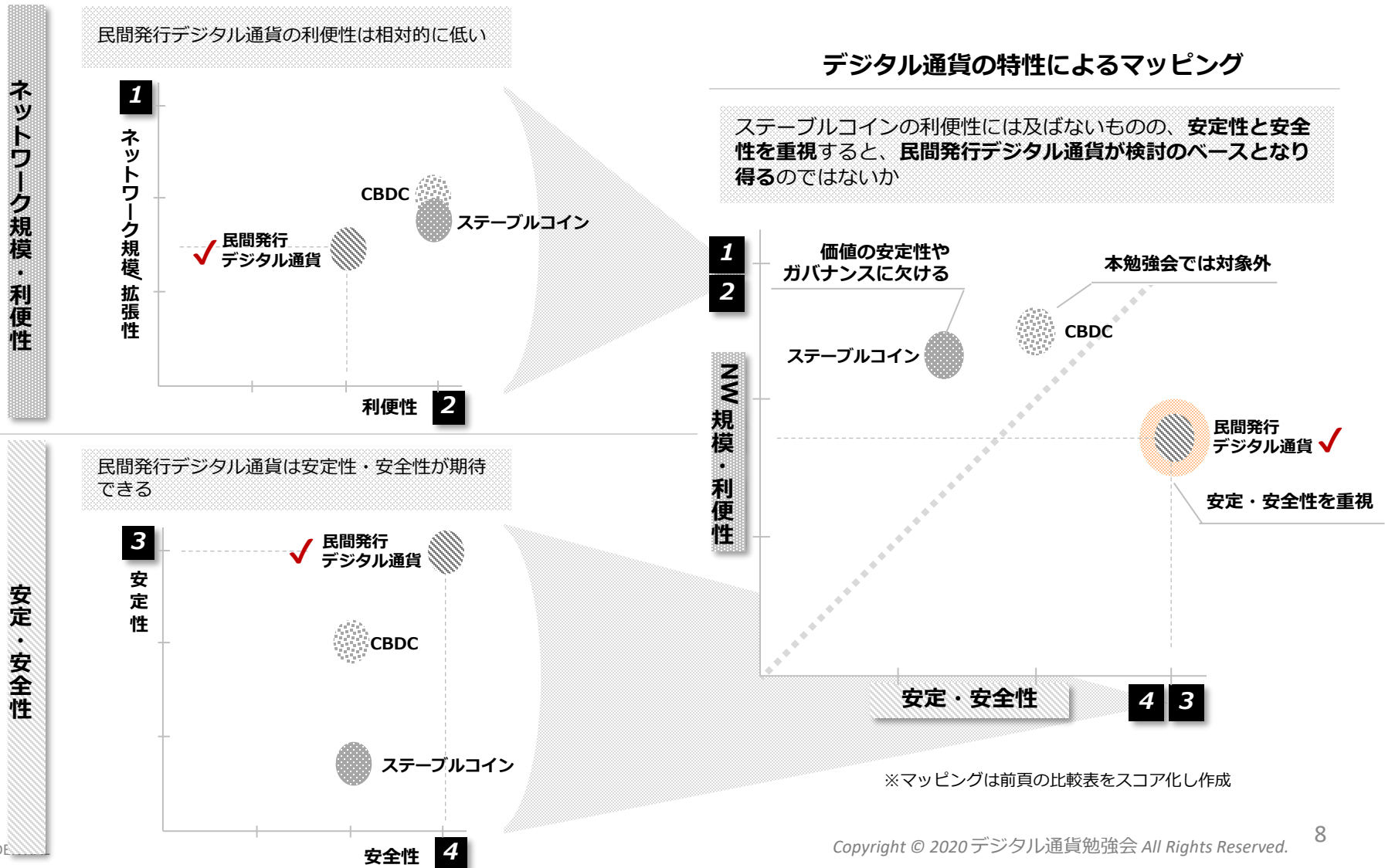
デジタル通貨が持つべき特性

デジタル通貨が持つべき特性(=どのようなデジタル通貨を実現したいか)を軸に、最適なスキームを検討したい

デジタル通貨の特性			中央銀行 デジタル通貨	ステーブル コイン	民間発行 デジタル通貨
			法定通貨担保	その他	
1 ネットワーク 規模・ 拡張性	A	流通性 (ボーダレス性)	流通の範囲は限定的か、ポータブルか。誰でも利用可能か  流通範囲は当該国内に限られる	 	 発行体の管理下に限られる
	B	相互運用性	流通範囲を超えた価値の移転や交換は柔軟に行えるか 	軽微なボラティリティが発生する為、相互運用しづらい  	
	C	機能性	価値の滞留性や、即時性等の機能性を担保できるか 	 	 資金移動業の場合に限り、金額の上限が存在
2 利便性	D	プログラマビリティ(自律性)	通貨にプログラムが組み込まれ、自律的かつ自動的な価値移転が行われるか   		
	E	価値の安定性	ボラティリティが低く、決済手段として機能する安定性を有しているか 	軽微なボラティリティは発生する可能性あり  技術的な実現性は未知数 	
3 安定性	F	金融システムへの影響度	銀行の預金調達不安定化、危機時の資金シフト、金融政策の機能不全等の不安定化を招かないか  大規模な資金シフトを招くリスク	金融政策によるコントロールが弱まる可能性 	
	G	トレーサビリティ	取引の追跡可能性が担保されているか 	 	
	H	ガバナンス	ガバナンスの仕組みによって、不正が行われるリスクが低減されているか 	 不特定多数がトランザクション処理を実施可能な為 	
4 安全性	I	情報の分散性	情報管理の一極集中リスクはないか  中央銀行の一極管理となるリスク	 	

補足) デジタル通貨が持つべき特性

本勉強会においては、「民間発行デジタル通貨」をベースに検討を進める方向が良いのではないかと



第2回 アジェンダ

1. 本勉強会の進め方 . . . 10分

2. 各国の事例紹介 . . . 60分

説明 (アクセンチュア株式会社様)
質疑

3. デジタル通貨の定義 . . . 20分

説明
討議

4. デジタル通貨の実現モデル . . . 20分

説明
討議

5. 事務局より連絡事項 . . . 5分

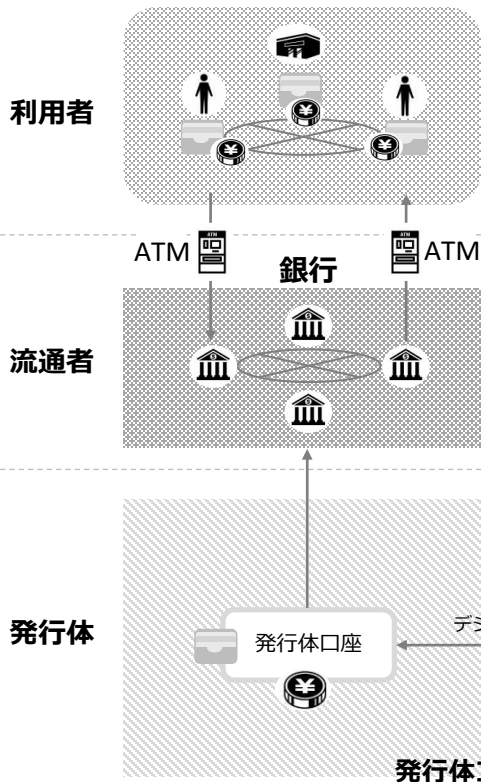
デジタル通貨の実現モデル（案）と想定される論点

想定される論点

- ・②は銀行口座の外で流通。電子マネーと類似。
- ・①は預金保険にて保全。②は銀行発行だが発行額の保全が必要。
- ・①②ともに意味意義をしっかりと共有する前提で、①は時間を要するのであれば②から推進するのは取りうるシナリオ

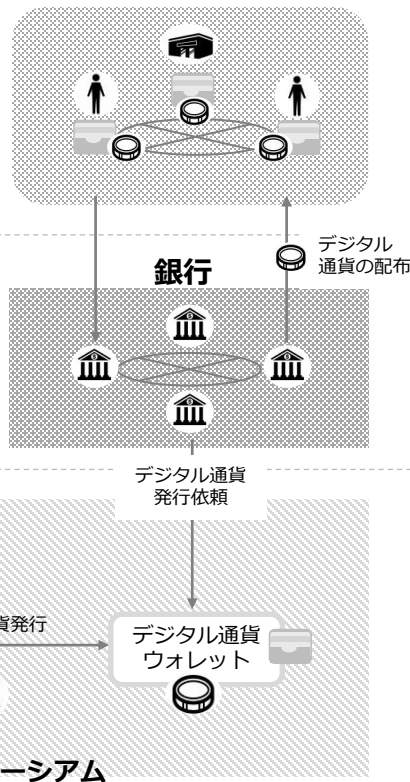
現金

- ・現金の取り扱いに当たりKYCは不要
- ・裏付資産は保全される必要がない



①デジタル通貨

- ・マイナンバー等でKYCされたウォレット間を流通
- ・裏付資産は預金保険による保全



②デジタル現金

- ・マイナンバー等でKYCされたウォレット間を流通
- ・裏付資産の保全が必要

